

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04098

研究課題名(和文) 伝統的皮革業集団の多文化比較におけるディスコース分析の可能性

研究課題名(英文) Discourse analysis of the traditional leather-tanning communities from cross cultural perspective

研究代表者

西村 祐子(nishimura, yuko)

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：80276451

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：伝統的皮革業集団としてアジア、日本、欧州、北アフリカ、北アメリカなどの被差別集団と皮革の結びつきを研究した。また現在のグローバルファッションと皮革産業の連関性に着目し、被差別民の抱えるシンボリズムとの両輪によって分析をおこない、ブランディングのメカニズムに注目した。現在その成果を岩波新書から一般読者にむけて発信する準備が整っており、現在90%が完了した。コロナ禍によるグローバル産業の大幅な変更により、それを加味した分析を10%加える予定となっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の被差別部落の皮革産業における伝統的技術や歴史などが比較文化的アプローチのなかでブランディングとして再生できる可能性を示唆した。また、ユダヤ系皮革専門集団がもつ多角的な皮革産業の展開のなかでブランディング戦略を研究することで皮革のシンボリズムがもつ多義性に注目することが出来、ブランディングのメカニズムの研究としてあらたな方向からのグローバル産業へのアプローチが可能となった。

研究成果の概要(英文)：The traditional leather industry groups such as Muslim (Asia), Japanese buraku, Chinese (Hakka) and Jewish groups (Europe, North Africa, North America) were investigated and their historical/symbolic links with the leather industry were analyzed confirmed. In addition, I analyzed the socio-historic relationship between the current global fashion and the marginalized community in leather industry, focusing on the branding mechanism that supports it. I am now ready to disseminate the results from Iwanami Shinsho to general public. Currently 90% is completed, but due to the drastic change of global industry caused by Corona, 10% analysis will be added in a couple of months.

研究分野：社会人類学

キーワード：皮革 ユダヤ系 被差別部落 グローバル産業 ラグジュアリー産業 ムスリム 客家 ブランディング

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

各地の伝統的な被差別マイノリティと皮革業とマイノリティ集団のかかわりは、欧州およびアジア・社会においてもおおきなかかわりをもっている。皮革業に伝統的に従事してきた集団であるユダヤ人、客家、アジア系ムスリムなどの研究が端緒についた。当初これらの集団は二極化しつつも専門職・皮革販売から工場経営に携わる階層を輩出してゆくことで集団全体の社会的地位の向上を成し遂げてきたと考えられた。皮革業に下層労働者として関わり続けた集団として、アジアでは日本の被差別部落集団だけでなく、インドの前不可触カースト集団、ムスリム集団、客家集団、欧州でのユダヤ系集団などがあげられるため、本研究ではそれらの諸集団の皮革とのかかわりの歴史と現在の状況を文献研究や現地インタビューなどによって比較研究することとした。ユダヤ系やイスラム教徒、客家集団などの場合、集団としての社会的、歴史的アイデンティティ形成のなかに皮革づくりが重要なディスコースとして根づいており、アイデンティティとして積極的に示すことによるコミュニティへの積極的な価値付与がおこなわれると考えられた。多くは現在に至るグローバルに拡大した皮革産業に依然として関わっており、そこに否定的なディスコースはみられないのではないかと推察され、対照的に、日本における伝統的な皮革づくりが宗教的な「ケガレ」とされ、被差別部落集団とつねに結び付けられ、彼らが担ってきたケガレを除去する宗教的な役割や社会的に「排除」されてきた歴史によって構築された様々なタブーにより日本における伝統的な皮革づくり(特に皮なめし業)自体がネガティブなイメージでとらえられ続けていると推察できた。

2. 研究の目的

皮革業を欧米で大規模に産業化することに貢献したユダヤ系およびアジアにおけるイスラム教徒集団や客家集団の皮革専門集団がどのようにして皮革産業をグローバル化し、高収益を上げつつブランディング戦略によって自集団の社会的地位をあげてきたかを問う。そこで皮革づくりのディスコースにおける変化を探る。

3. 研究の方法

量的データは既存の研究資料を活用しつつ、当該集団の皮革業者および関連職種の人々への質的な面談調査と双方向的なシンポジウム、セミナーなどでの専門業に属する参加者らとの意見交換。

4. 研究成果

本研究では産業としての皮革業がともすれば部落解放運動の一環として差別の対象としてのみ扱われがちであった点を是正し、世界からみた皮革産業の視点におきかえつつ日本における伝統的な皮革業集団のなかにある世界的にも優れた技術や伝統工芸などに注目し、あらたな日本の皮革づくりのブランドに役立てることができるようなストーリーづくりをめざした。

海外の他の革づくり集団においては自らの被差別、疎外体験などが社会的上昇を遂げる中で昇華され、肯定的なアイデンティティづくりに役立ち、社会的な地位の確立に役立っているのに対し、日本においてはむしろ劣悪な住環境や差別を是正するための被差別部落解放運動によって社会的な上昇を遂げられる肯定的なディスコースとなりえなかった原因を考察した。

本研究において成功したのは皮革製品を作る多様な人々と皮革づくり(皮なめし業者)との間にある乖離を多少なりとも研究書のなかで埋めることが出来た点であろうと考える。しかしながら第二次世界大戦後急速に進んだ化学なめし手法(クロムなめし)への転換により、日本の中小なめし業工場が健康被害を受け、途上国からの安価な皮革の流入によって衰退してきた傾向に歯止めをかけることは難しいとの点を強調した。それを解決するには海外との連携やマーケティングに注力するだけでなく日本の革のブランド化をはかるための戦略が必要だが、そこで重要となる肯定的な皮革づくり職人のアイデンティティ、日本の革に対する肯定的なディスコースが欠如している点についても指摘し、それ

を改善するための国際交流が不可欠であることも指摘した。

肯定的なアイデンティティとそのディスコースの醸成によって大きな比較文化論としての皮革を論じることが可能であり、現在筆者が新たな研究としておこなっていることでもある。

本研究では皮革研究の世界的な権威として知られる英国のノースハンプトン大学の皮革研究所と皮革づくり全般とマーケティングに関する世界的な権威であるマイクレッドウッド教授との共同研究により、皮革業専門家、バイヤーなどが集まる学会やシンポジウムで連続講演をおこなうことができた。

このような機会により、日本の皮革産業史の特殊性について語るだけでなく、それを基点として、現在は新たな皮革史と皮革文化の研究に取り組み、それらがどのように現在のグローバルなラグジュアリー産業に結び付けられるかを検討している。

現在進行中の研究はあらたに取得した科研 19K12510 によって、欧州、アフリカ、南北アメリカ、アジアをつなぐグローバルな皮革産業とラグジュアリー産業のネットワークについて研究し、文化論に繋がる「皮革の魔力」と「グローバル産業として急速に1980年代以降発展してきたラグジュアリー産業の実態について研究を重ねている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Yuko Nishimura	4. 巻 13
2. 論文標題 A socio-cultural study of Japanese leather	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 駒澤大学総合教育研究部紀要	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西村祐子	4. 巻 740
2. 論文標題 「革はミステリー」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 .110-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西村祐子	4. 巻 739
2. 論文標題 ジェネレーションXとミレニアル世代を探して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 112-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西村祐子	4. 巻 737
2. 論文標題 姫路のトリックスター	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 101-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西村祐子	4. 巻 735
2. 論文標題 アジアの革づくり人たち	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 116-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村祐子	4. 巻 734
2. 論文標題 シェルコードヴァンをつくる人々	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村祐子	4. 巻 733
2. 論文標題 北米のユダヤ人, '「解放」733号, pp. 109-119.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 109-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村祐子	4. 巻 731
2. 論文標題 '革づくり人のアイデンティティ (2) '「解放」731号, pp. 112-123.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 112-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村祐子	4. 巻 730
2. 論文標題 「革づくり人のアイデンティティ(1)」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 113-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Yuko Nishimura
2. 発表標題 The Enigma of Japanese Leather
3. 学会等名 University of Northampton & Archaeological Society of Leather (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村祐子
2. 発表標題 世界の革ビジネスと日本の革の独自性
3. 学会等名 「ものこぼ春のセミナー」台東区立皮革博物館 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 西村祐子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 皮革の魔力ーグローバル皮革産業とブランディングのいま	

1. 著者名 西村祐子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 267
3. 書名 革をつくる人びと	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----